一夜城

川が運んだ城



一五六〇年代、織田信長は美濃の国（今の岐阜県）を攻めあぐねていました。美濃を手に入れなければ、京への道は開けません。長良川のほとりに、墨俣という土地がありました。敵のすぐ目の前です。けれども、ここに砦を築くことができれば、戦いは一気に有利になります。しかし、過去に何度も築いては敵にこわされ、失敗していました。

そこへ名乗り出たのが、木下藤吉郎――のちの豊臣秀吉でした。このころの藤吉郎は、まだ身分の低い家来でした。「わたしにやらせてください」と申し出た時、まわりの者は本気にしなかったと伝えられています。名のある他の家来が既に何度も砦を築くことに失敗してきたからです。

藤吉郎の考えは、それまでの考えとはちがっていました。ふつうは現地で木を切り、その場で組み上げることを考えます。しかし、それでは何日もかかり、そのあいだに敵に見つかってしまいます。そこで藤吉郎は、川の上流で先に木を切り、いかだに積んで川で運び、あとは組み立てるだけの形にしておいたのです。そして、この川について知りつくしていたのが、蜂須賀小六たち川並衆と呼ばれる人々です。川を仕事場としてきた彼らは、流れも浅い所も、進み方も体で覚えていました。そして、敵が気づいた時には、もう砦が立っていたといいます。あまりの早さに人々はおどろき、やがてこの砦は一夜城と呼ばれるようになりました。

ただし、この話には続きがあります。信長と同じ時代に書かれた信長公記という記録にあるのは、「墨俣に城を造らせた」という一文だけ。藤吉郎の名も、「一夜」という言葉も出てきません。くわしい話がのるのは武功夜話という書物です。ところがこれは一九五九年に見つかったもので、写しの多くは江戸時代の終わりごろのものです。本物かどうか、専門家の間で今も議論が続いています。どこまでが事実なのかは、まだわかっていないのです。それでも四百年語りつがれてきたこと、そして名もなかった男がやがて天下を取ったことだけは、たしかです。

選択

この文章の書き手の考えに合うものはどれですか？選んで○をつけましょう。

①一夜城の話は、はじめからすべて作り話である

②一夜城の話は、どこまでが事実かまだわかっていない

③一夜城の話は、信長公記にくわしく書かれている

記述

あとの10個から言葉を選んで（　）に入れ、文章全体をまとめましょう。

一五六〇年代、信長は美濃攻めに苦しんでいました。（①）に砦を築けば有利になりますが、敵の目の前で何度も失敗していました。名乗り出たのは、まだ身分の（②）木下藤吉郎でした。藤吉郎は、川の上流で先に木を切って組み立てるだけの形にし、いかだに積んで川で運ぶ方法を考えます。川を知りつくした（③）の協力もあり、敵が気づいた時には砦が立っていました。この砦はやがて「（④）」と呼ばれます。ただし信長公記にあるのは「墨俣に（⑤）を造らせた」の一文だけで、くわしい話がのる武功夜話は、本物かどうか（⑥）が続いています。

城　川並衆　高い　一夜城　刀　墨俣　議論　京都
低い　決着

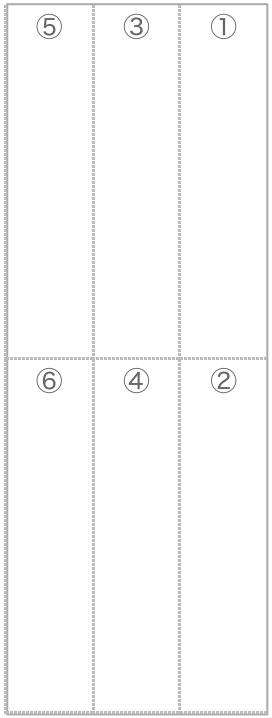
漢字

漢字に直して書きましょう。

⑴ぼうさい

⑵けわしい

⑶したがう



© ドリパパの国語テスト　doripapadrill.com

こたえ
一夜城

選択（せんたく）

②

②が正かい（第四段落に、まだわかっていないと書かれている）

記述

①墨俣　②低い　③川並衆　④一夜城　⑤城　⑥議論

漢字

⑴防災　⑵険しい　⑶従う

© ドリパパの国語テスト　doripapadrill.com